

< 機械・農作業の共同化を実施している事例 >

集落ぐるみの農業生産活動の体制を構築する取組

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	山口県長門市木吹 <small>ながとしこぶき</small>			
協定面積 35ha	田(100%) 水稻	畑	草地	採草放牧地
交付金額 730万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員報酬		2%
		農地維持管理費		30%
		水路・農道維持管理費		10%
	体制整備に向けた活動費等		8%	
協定参加者	農業者 25人、非農業者 4人			

2. 取組に至る経緯

木吹集落の抱える課題は、担い手の大部分が高齢者で、後継者がいないため将来的に担い手不足が予想されること及び、協定農用地の全域が山間地の急傾斜であるため、農作業に多大な労力を費やしていることである。また、有害鳥獣による被害も多い。

そのため第2期対策では、高齢者の農作業による肉体的不安を解消するため、個別完結型の農業から、機械・農作業の共同化等を推進し、集落ぐるみの農業生産活動の体制を構築することを目標に掲げ、取り組むこととした。

3. 取組の内容

機械・農作業の共同化については、第2期対策当初より目標には掲げたものの、協定内での反対意見等もあり、なかなか実施されなかったが、4年目に入り取組を本格化させ、動力噴霧器による共同防除を開始した。その際、散布時期が重複する場合は、他の既所有者の噴霧器を借用し、使用料を協定より支払うこと、地理的条件等により共同防除が出来ない者には、粉剤散布時に手伝いと農薬代を協定より提供すること等を詳細に協議し、協定内での不安を解消している。

また、他の取組として、非農家と共同で景観作物（コスモス・菜の花）の植え付けを実施している。景観作物の植え付け場所は、集落唯一の観光スポットでもある妙見山展望公園への通り道であり、非農家を含め集落一体となってイメージアップ活動に取り組んでいる。



共同防除作業

[集落の将来像]

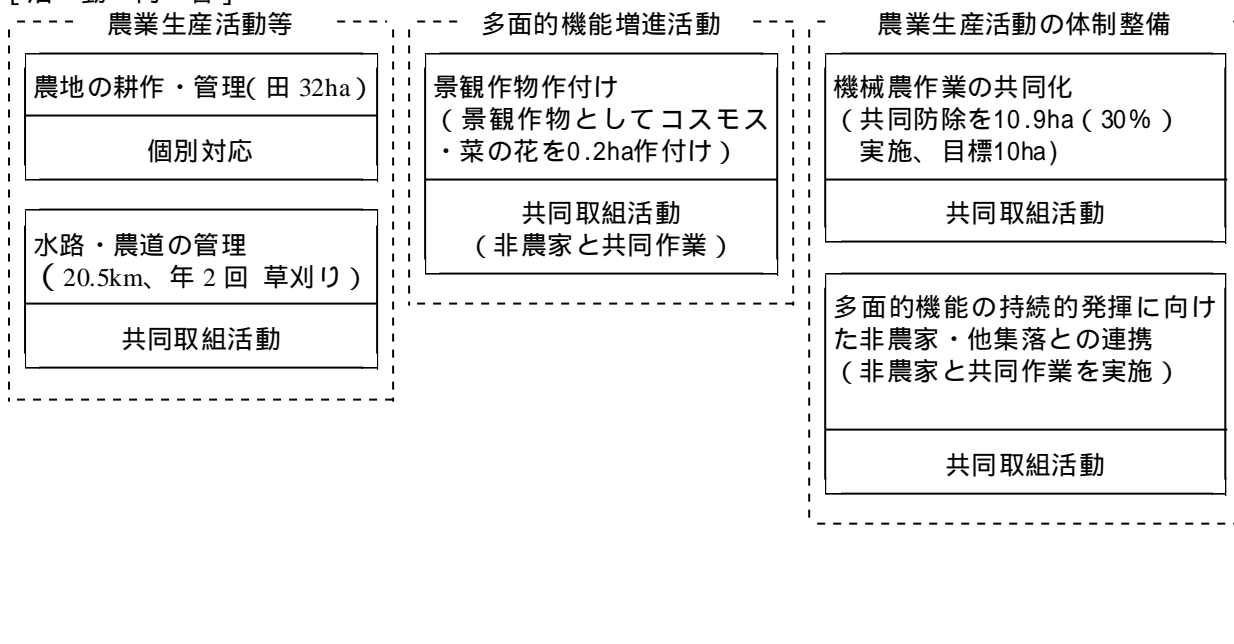
将来農業者の高齢化や担い手不足が予想されるので現状の個別完結型の農業から機械・農作業の共同化等を推進し集落ぐるみの農業生産活動の体制を構築する。



[将来像を実現するための活動目標]

機械・農作業の共同化等の推進

[活 動 内 容]



4 . 取組による変化と今後の課題等

機械・農作業の共同化、非農家を含めた共同取組活動により、集落の連帯感は一層強化されたことは言うまでもない。また、単に農地を守るだけでなく、集落が一体となって農業生産活動の体制を構築していくという責任感が増したように感じる。

今後の課題としては、更なる機械・農作業の共同化等を推進し、集落ぐるみの農業生産活動の体制を強化することであるが、ただ、当該集落だけでは担い手不足の問題を解消出来ないことから、他の集落との連携等を本格的に実施していくことも必要であると考え。現在、水路の一部を隣集落との共同による清掃作業をしているが、今後も他の集落との連携を図り、共同作業や農業生産活動の体制を構築していくことについても具体的に検討していきたい。

[平成20年度までの主な成果]

- 電気柵設置 (野猪被害対策) (目標4.2km、実績3.8km)
- 農道水路の補修、改良 水路 (目標150m、実績150m)
- 牛の放牧 (目標1.9ha、実績1.9ha)
- 非農家との共同作業 非農家参加者 (0人(H17-19)、4人(H20))